日小整会誌 (J Jpn Ped Orthop Ass) 13(2)：244-246, 2004. KPOS 2003 参加報告

KPOS JPOA exchange fellowship

福岡県立粕屋新光園
福 岡 真 二

2002年11月に福岡で開催された第13回学術集会(松尾 隆会長)において"Orthopaedic selective spasticity control surgery for the shoulders in spastic palsy patients"の演題で最優秀ポスター賞をいただき，2003年10月にソウルで行われたThe Korean Paediatric Orthopaedic Society(KPOS)学術集会で発表して参りましたのでご報告申し上げます．

韓国では10月13～15日の滞在を通じて，KPOS事務局が置かれるSeoul National University Children's Hospital(In Ho Choi教授)の先生方から心温まる歓待を受けた．先ず13日はChoi教授にご挨拶した後，Tae-Joon Cho副教授の案内で同病院を見学した(写真)．整形の病床は30床ほどだが，Choi先生とCho先生で，1日5～6例の手術を週に3～4日している．スタッフは他に助手のWon Joon Yoo先生，フェローのMin Suk Jang先生，そしてレジデント2名．回診したのは13～14日手術の子どものみだが，骨形成不全症の髄内釘，DDH軽度遺残亜脱に対する臼蓋形成(Dega)，脳性麻痺尖足，脛骨開放骨折後遷延癒合など多岐にわたっていた．これでもKPOS主催のため簡単な手術に限定したとのこと，日頃の忙しさは並大抵ではない．14日はレジデントのTae-Yune Kim先生の運転でソウルの南20kmほどのベッドタウンに新設されたSeoul National University Bundang HospitalのChin-Youb Chung教授を訪問した．Chung先生はSeoul National University Children's Hospitalの前副教授でKPOSの事務局長である．Chung教授は脳性麻痺が専門で，脳性麻痺の手術を1日3～4例，週に3～4日行っているが，それでも手術待ちが2～3年とのことであった．一般整形も診療しており，病床は40～50床あるが，他のスタッフはフェロー1人，レジデント1人しかおらず，レジデントは病棟業務が多忙で手術には入れない．14日当日はcrouched postureと尖足に対する同時手術を見学した．膝窩で半腱様筋を切離し大内転筋に移行，半膜様筋をフラクショナル延長，薄筋腱を切離して末梢側を皮下を通して前方に導き，大腿直筋移行に用いる(実際の大腿直筋移行は保険収益の関係で1週間後に行うとのこと)．尖足に対してはWhite法でアキレス腱延長を行っ

写真 1. Seoul National University Hospital

写真 2. Seoul National University Children's Hospital

写真 3.
KPOS 会長 Hui Wan Park 教授主催の夕食会(前列左から，Park 会長，In Ho Choi 教授，Jung 副教授夫人，Herring 教授夫妻，後列左から，筆者，Sung Taek Jung 副教授，Tae Joon Cho 副教授，Chin Youb Chung 教授)

ていた．実に見事な手並みで，両側行って手術時間は 40 分であった．また，股関節の内旋屈曲変形に対しては，小転子上縁レベルでの回旋骨切りを行うとのことで，手術前後の歩行ビデオを見せてもらったが，術後の歩容はほとんど正常化しており驚かされた．

13 日の夕刻には KPOS 会長の Yonsei University Medical School の Hui-Wan Park 教授の主催で，KPOS に招待されていた Texas Scottish Rite Hospital for Children の Herring 教授夫妻，Herring 夫妻の案内役の Chonnam University Hospital の Jung 副教授夫妻，そして Seoul National University の先生方と韓国宮廷料理をいただいた(写真)．14 日にも KPOS の DY Lee 名誉会長と Park 会長の主催で Herring 教授夫妻と KPOS 理事の先生方と晩餐会が催された．私はこのような機会に話せる内容も英語力もなく不躾にも黙って飲んでいるしかなかったが，Lee 名誉会長が日本語で話しかけてくださったり，理事のお一人の Keiyung University の Kwang Soon Song 教授が分かりやすい英語に直して通訳してくれたり，非常に暖かく接していただき涙が出るほどありがたかった．

さて，KPOS 学術集会は，10 月 15 日の午後，Seoul National University Hospital の

研究棟の会議室で行われた．Part Ⅰはアメリカ留学者の帰国報告，Part ⅡはHerring教授を交えてペルテス病とDDH症例について討論，Part ⅢはHerring教授のペルテス病についての講演，Part Ⅳは脳性麻痺と先天疾患，Part Ⅴは外傷その他であった．先ず，Herring教授の講演であるが，教授が整形外科医になった当時はアメリカでも，ペルテス病の子ども達は装具をつけて数年間の入院生活を送り，退院後も数年間は下肢をslingで吊って松葉杖を使用していた．このような根拠が確かでない治療を長期間行うことに対する疑問が教授の研究の動機であり，その成果がlateral pillar分類である．この分類を使用していく中でgroup Bかgroup Cか判別困難なものが少なくないことが分かり，B/C borderというグループが追加された．現在の結論は，年齢が8歳以上でgroup BまたはB/C borderは扁平化が進みやすく，また，その予後を手術により改善できるため手術適応である．8歳未満やgroup Aは手術しなくても扁平化は進まないので手術適応はない．反対に，8歳以上のgroup Cは手術しても予後を改善できないので手術適応はない．その他の演題もいずれも質の高いものであった．KPOSのメンバーになるには，整形外科認定医で，小児整形の経験が1年以上，小児整形を専門にすることが必要で，審査が厳しい．このため会員数は70名ほどであるが，会員の全てが大学の助手以上で留学経験もある様子だった．

短い滞在ではあったが，その他にも，極めて明朗闊達な紳士であるTae Joon Cho副教授は，宮廷を案内してくれたり，ワインをご馳走してくれたり，私のソウル滞在が楽しいものになるよう苦心してくださった．また，レジデントのTae Yune Kim先生は，オリンピック公園や商店街を案内しながら，韓国のインターン，レジデント，兵役などについて語ってくれた．ソウル大学近くの小さなレストランで彼と一緒に味わった韓国の清酒“百歳酒”や“清河”も忘れられない．このような良き隣人に負けぬよう，私も臨床研究を続け，JPOAでの発表・討論を続けていきたいと思った．

最後になりましたが，このように有意義なexchange fellowshipを企画・運営していただきました，KPOS・JPOA両学会の諸先生方に心より御礼申し上げます．